

2017年3月期 第2四半期決算 電話カンファレンス 主な質疑応答

日時：2016年10月28日（金）17:15 ～ 18:00

出席者：取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博
 広報・IR グループリーダー 小林 太郎

第2四半期決算に関して

- Q1：ライフアメニティーが前年同期比で減収減益となっていますが、どの事業の収益が大きく変動していますか。
- A1：売上減の大半はフィガログループが連結から外れたことによります。利益面ではフィガロの減少に加えて、医薬品原薬、医療診断システムが好調だった前年同期の反動で減益となりました。

通期業績予想に関して

- Q2：特殊品とセメントで営業利益の下期計画を下方修正した理由について補足いただけますか？
- A2：特殊品は、トクヤママレーシアの損益悪化、半導体向け多結晶シリコン等で為替影響による手取りの減少を織り込んでいます。セメントは、販売数量が若干減ることと原燃料のコストアップを織り込んでいます。
- Q3：今回の見直しでは、原燃料価格や為替の変動を織り込んだとのことですが、それぞれのどのくらいの影響がありますか？
- A3：国産ナフサは上期 31,400 円/kl から下期 33,000 円/kl に上がると見えています。最終的にはナフサ上昇分は価格転嫁できると考えていますが、国産ナフサ価格が 1,000 円/kl 変動すると、石化製品で年間で 5～6 億円のコスト影響があります。また、石炭は年間で 200 万トン使いますので、例えば価格が 10 ドル変動すれば約 20 億円のインパクトがありますが、実際は在庫等もありますので徐々にコストに効いてくることとなります。為替感応度は、グループ全体では輸出と輸入が概ねバランスしておりほぼニュートラルですが、短期で為替が大きく変動した場合は、売上へのインパクトが先行します。
- Q4：今回見直された経常利益以下の計画についてもう一度ご解説いただけますか？
- A4：今回見直した経常利益が 270 億円です。上期の特別損益は約 60 億円のプラスでしたが、下期の特別損失にトクヤママレーシアの譲渡損の約 85 億円を含めて 90～95 億円を見込んでいますので、通期の特別損益が 35 億円のマイナスとなり、税前利益は約 235 億円となります。一方、トクヤママレーシア譲渡に伴い税金費用が当初見

込みから約 80 億円減少して 20 億円程度になると考えていますので、親会社株主に
帰属する当期純利益は 210 億円になるということです。

- Q5 : 営業外の試作費用が 1Q で 17 億円くらい出ていて、2Q はほとんど増えていません
が、今後はもう出ないということによろしいですか。
- A5 : 1Q で発生した試作費用のほとんどが、マレーシアの PS-1 で 3 月から 4 月にかけて
行った定修の費用ですが、PS-1 は 9 月末を以って運転を止めました。今後について
は 10 月に少し費用が発生しますが、大きな費用発生は見込んでいません。

資本政策に関して

- Q6 : 普通株への配当の復活というのはどのように考えていますか？優先株 200 億円の早
期償還の方針など、現時点でお話しいただける範囲で教えてください。
- A6 : ポイントは 3 つあります。1 つ目が今期の業績と来期の見通し、2 つ目が優先株の償
還、3 つ目がトクヤママレーシア譲渡のクロージングの確認です。これらを勘案しな
がら復配のタイミングを図っていくことになります。

トクヤママレーシアの OCI への譲渡に関して

- Q7 : トクヤママレーシアの譲渡が独禁法の関係などで延期になった場合、今期の業績見
通しは大きく変わりますか？
- A7 : 独禁法などで 3 月末よりも伸びた場合でも、譲渡に伴い発生を見込んでいる譲渡損
と税金費用の減少がそれぞれなくなるため、今期業績への影響は軽微であると認識
しております。